

九段サテライト周辺および史跡等

- **多摩キャンパス** (経営情報学部)
〒206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1 TEL:042-337-1111 (代表)
- **湘南キャンパス**
(グローバルスタディーズ学部)
〒252-0805 神奈川県鎌沢市円行802 TEL:0466-82-4141 (代表)
- **品川サテライト**
(大学院 経営情報学研究科)
〒108-0075 東京都港区港南2-14-14 品川インターシティフロント5階
TEL:03-5769-4170 (代表)

インターゼミ(社会工学研究会) ～文献研究とフィールドワーク

インターゼミ(社会工学研究会)は、毎週土曜日(16:20～17:50)、九段下寺島文庫3階の多摩大学九段サテライトで開講している寺島実郎学長の直轄ゼミナールです。

経営情報学部・グローバルスタディーズ学部の2学部と社会人大学院生および卒業生、修了生を含めた約40人を5つのチームに分けて、それぞれに年間課題として研究テーマを与え、文献研究とフィールドワークでチームとして課題に対する論文を書き上げます。1つのチームに、両学部・大学院の教授が2名以上配置され、世代を超えた共同研究となっています。

インターゼミが、なぜ都心の九段サテライトで開講されているか。それは九段周辺にある様々な史跡と神田神保町の本屋街の存在です。ゼミの前後に史跡を巡り、神田古本屋街に足を向け、本を発見し、手に取り、考え、自分の頭を鍛えるという経験を積み上げます。

本気で大学・大学院生活の間に、1つのテーマにぶつかって、勉強し自らを錬磨しようという人が、2つの学部と大学院の交流を通じたスパークのあるゼミに参画しています。



寺島学長によるチーム別の論文指導

春学期(4月～7月)、秋学期(9月～1月)の毎週土曜日の5時限目(16:20～17:50)、多摩大学九段サテライト(東京都千代田区九段北1-9-17 寺島文庫ビル3階)にて開講。

8月に、箱根にて1泊2日の夏季合宿をおこなう。

毎回の講義は、前半 寺島実郎学長による、その週の世界と日本の出来事等の講話と教授陣のミニ講義。後半は、チームごとのグループワーク。

年3回(6月:研究計画発表、8月(合宿):中間発表、12月:最終発表)、学長、両学部・大学院の教授陣およびゼミ生に向けての発表をおこなう。

実績 ～企業・自治体のトップへの提言多数、研究成果を書籍として出版



サービス・エンターテインメント班の3年間のディズニー研究の論文を株式会社オリエンタランド代表取締役社長(兼)COOの上西京一郎様に贈呈し、感謝状をいただく。(2012年4月16日)



復興構想コンテスト ～震災復興から日本創生へ～において、地域班が優秀作を受賞。(2012年4月20日)



多摩学班が加山俊夫相模原市長を訪問し、相模原の将来構想についての意見交換。(2014年12月10日)



『モンゴル帝国とユーラシア史』
社会人・大学院生・学生の目線からの
グローバルヒストリー』
多摩大学出版会
(2023年4月刊行)

アジアダイナミズム班



『多摩学への試み 多摩地域研究』
多摩大学出版会
(2024年4月刊行)

多摩学班

これまでの研究テーマ

1.多摩学 班

2009 年度：多摩ニュータウンの活性化に関する研究
(担当教授：酒井麻衣子・松本祐一)

2010 年度：八王子千人同心、絹織物産業、民話、多摩川の水利、市民農園
(担当教授：中庭光彦・松本祐一・菅野光公・長田貴仁)

2011 年度：中里介山・白洲次郎にみる成り上がり新中間層と多摩地域の関係
(担当教授：中庭光彦・松本祐一・諸橋正幸)
フィールドワーク：武相荘、羽村市郷土資料館

2012 年度：浦賀を中心に見た 江戸幕府の対外貿易と海防
(担当教授：中庭光彦・諸橋正幸)
フィールドワーク：浦賀コミュニティセンター(郷土資料館)、浦賀城

2013 年度：自由民権運動にみる多摩のDNA
(担当教授：中庭光彦・奥山雅之・木村知義)
フィールドワーク：町田市立自由民権資料館

2014 年度：2040 年多摩の展望 ～50 年に一度の交通革命をこえて～
(担当教授：奥山雅之・荻野博司)
フィールドワーク：リニア中央新幹線駅予定地、さがみはら産業創造センター、アメリカ軍使用補給基地、まちだテクノパーク、南大沢アウトレット、リニア中央新幹線資料センター(山梨県都留市)、羽田ヤマトクロノゲート、相模原博物館、JAXA、相模原 IC、横田飛行場、日光(アジアダイナミズム班合同FW)、相模原商工会議所、相模原市長面会
外部セミナーリニア・新幹線・相模線 3 同盟会共催講演会」

2015 年度：多摩ニュータウン2.0
～ニュータウン再生に向けた多摩版CCRCの可能性と提案～
(担当教授：奥山雅之・相原伸也・荻野博司)
フィールドワーク：高蔵寺ニュータウン(名古屋市)、中部大学、豊田産業技術記念館

2016 年度：多摩ニュータウン再生に向けた新たな活性化策の研究
～シニアと学生との緩やかなネットワークの形成を中心に～
(担当教授：奥山雅之・木村知義)
フィールドワーク：株式会社エニタイムズ「困りごとマッチングサービス」、多摩市環境行事実行委員会主催「環境ウォッチング」、ヤマト運輸株式会社「ネコサポステーション」、合同会社たまブラ・コネクト「学びあいシステム」、NPO法人リブ&リブ「世代間交流ホームシェア」

2017 年度：若者にとって魅力ある多摩地域の創生～若者呼び込みに向けた提案～
(担当教授：丹下英明・野坂美穂・荻野博司)
フィールドワーク：多摩市でのアンケート調査(多摩市内イベント会場、多摩センター駅前、永山駅前)コレクティブハウス聖蹟

2018 年度：ジェロントロジーから見た多摩への提言
～人生 100 年代を幸せに過ごす社会システムの要件とは～
(担当教授：丹下英明・初見康行・荻野博司)
フィールドワーク：RIZAPグループ株式会社、多摩市役所、東京都健康長寿医療センター、朝霞くらんぱの会、株式会社キャリア、ハローワーク府中、野村資本市場研究所

2019 年度：多摩地域の産業から未来を描く 一住み続けたい街の実現に向けて～
(担当教授：長島剛・佐藤文幸・荻野博司)
フィールドワーク：川崎市経済労働局イノベーション推進室、株式会社愛知銀行法人営業部地域連携グループ、一般社団法人首都圏産業活性化協会(TAMA 協会)、第一勧業信用組合連携企画部、相模原市環境経済局経済部、経済産業省関東経済産業局、埼玉県県民生活部、労働部、日本理化学工業株式会社、株式会社アルファメディア、産業能率大学、株式会社さがみはら産業創造センター、オリオン機械工業株式会社、川崎市臨海部国際戦略本部国際戦略推進部、東京都統計局行政部多摩振興担当、東急株式会社

2020 年度：次世代に届けたい多摩地域の在り方
～30 年後の次世代が住み続けたい多摩地域になるために～
(担当教授：長島剛・山田大介・荻野博司)

2021 年度：「多摩地域」における住みやすさとは一地域のネットワークの視点から～
(担当教授：長島剛・落合孝彦・内藤旭恵)

2022 年度：多摩圏の防災対策について～現状と今後の展望～
(担当教授：落合 孝彦・新西 誠人・荻野 博司)

2023 年度：多摩の水害と求められる情報伝達について
～多摩大学防災拠点化に向けた提案～
(担当教授：新西 誠人・田中 友理・荻野 博司)

2.アジアダイナミズム 班

2009 年度：アジアとの交流プログラム・多摩大学の留学生獲得戦略研究
(担当教授：金美德・木村知義)
フィールドワーク：立命館アジア太平洋大学、北九州市立大学

2010 年度：①歴史・文化：東アジアの未来像の構築に向けて
②経済：「ヒト」「モノ」「カネ」「産業」
(担当教授①②：金美德・木村知義)
フィールドワーク：立命館アジア太平洋大学

2011 年度：孫文・伊藤博文・安重根
(担当教授：金美德・菅野光公)

2012 年度：尖閣諸島・竹島
(担当教授：金美德・巴特尔)

2013 年度：日本とユーラシアの交流 ― 飛鳥寺を手掛かりに ―
(担当教授：金美德・巴特尔・小林英夫)
フィールドワーク：帝塚山大学(合同ゼミ)、飛鳥寺、元興寺

2014 年度：江戸期の日中韓交流
～朝鮮通信使の外交・文化的意味と現代的意義～
(担当教授：金美德・巴特尔・小林英夫)
フィールドワーク：対馬、対馬観光物産協会、長崎県立対馬歴史民俗資料館、対馬市役所、広島、松浦園、御馳走一番館、長瀬木、鞘の浦、外部セミナー「日韓における交流拡大と平和増進に果たした朝鮮通信使の役割」(静岡県静岡市)、清見寺(静岡市清水区)、日光、日光東照宮、朝鮮鐘、三具足、八王子千人同心記念碑、輪王寺三仏堂宝物殿、大猷院、朝鮮通信使・今市客館跡碑

2015 年度：琉球国と東アジア交流
～琉球史から探る沖縄の自立自尊と経済の自立～
(担当教授：金美德・巴特尔・中澤弥)
フィールドワーク：台湾駐日経済文化代表処、普天間基地周辺、辺野古、名桜大学、中城城、琉球大学、沖縄タイムス社、那覇市場、首里城

2016 年度：長崎が拓いたアジアとヨーロッパの交流
(担当教授：金美德・大場智美)
フィールドワーク：島根県石見銀山、長崎県(平戸オランダ商館、松浦資料博物館、長崎大学多文化共生学部オランダ学科、サントミミンゴ教会跡資料館、出島、長崎文化博物館)、横須賀市浄土寺

2017 年度：モンゴル帝国のユーラシア興隆史
(担当教授：金美德・水盛涼一)
フィールドワーク：京都市(国際日本文化研究センター、龍谷大学文学部、関西大学東西学術研究所、東福寺、龍谷ミュージアム、天龍寺)

2018 年度：モンゴル帝国の興隆と衰退
(担当教授：金美德・水盛涼一・加藤みずき)
フィールドワーク：中華人民共和国・北京市(南開大学、中国社会科学院歴史研究所、中国人民大学、中国第一歴史檔案館、故宮、ウォルター社)モンゴル国・ウランバートル市(モンゴル財政経済大学、民族博物館、国会議事堂前広場、国際 NPO、日本人墓地、チベット寺院、チンギス・カン公園)

2019 年度：モンゴル帝国と朝鮮半島
(担当教授：金美德・水盛涼一・小林昭梁)
フィールドワーク：元寇資料館、畠町宮、福岡市博物館、九州大学伊都キャンパス、九州国立博物館

2020 年度：パンデミックのユーラシア史とポストコロナ
～モンゴル帝国史を起点としたペスト(黒死病)の欧州と日本の中近世史～
(担当教授：金美德・水盛涼一)

2021 年度：倭寇とモンゴル帝国史～海洋の渡海民と大陸の遊牧民～
(担当教授：金美德・水盛涼一)

2022 年度：華人華僑とモンゴル帝国史
(担当教授：金美德・水盛涼一)

2023 年度：モンゴル帝国の衰退から見る宗教と統治
～ロシアと中国の視点から～
(担当教授：金美德・水盛涼一)

3.サービス・エンターテインメント 班

2009 年度：ウォルト・ディズニー、ディズニー社、東京ディズニーランド
(担当教授：渡邊 泰典)
フィールドワーク：東京ディズニーランド、サンリオピューロランド

2010 年度：①ディズニー：ディズニーキャラクタービジネスの成功要因に関する考察
フィールドワーク：東京ディズニーシー
②観光：マンガ・アニメ・ツーリズム
フィールドワーク：宮城県石巻市石ノ森漫画館
(担当教授①②：酒井麻衣子・中澤弥)

2011 年度：ディズニーにおける人材育成
(担当教授：酒井麻衣子・中澤弥)

2012 年度：ディズニー海外展開戦略
(担当教授：酒井麻衣子・中澤弥)
フィールドワーク：東京ディズニーランド

2013 年度：顧客・従業員満足度に関する考察
～多摩大生が企業を選ぶ際に重要視すること～
(担当教授：安田震一・菅野光公)
フィールドワーク：コールドストーン、スターバックスコーヒー、香港ディズニーランド、東京ディズニーランド、和民

2014 年度：日本を元気にする I R 和風 I R
～対アジア・関西圏統合型リゾート構想～
(担当教授：安田震一・市岡浩子・久保田貴文)
フィールドワーク：株式会社ジジテレビ I R 事業計画

2015 年度：訪日リピーターに日本の魅力を発信し日本通を育てるためのSNSの活用 ～沖縄観光と日本食文化を例として～
(担当教授：久保田貴文・田中孝枝・安田震一)
フィールドワーク：那覇(東京都港区)、沖縄(アジアダイナミズム班合同)

2016 年度：湘南藤沢の再武装 ～観光振興による地域の課題解決～
(担当教授：田中孝枝・巴特尔・安田震一)
フィールドワーク：片瀬江の島周辺(観光案内所、湘南海岸公園、ニエ・アル記念碑、スラムダング踏切)

2017 年度：ショッピングモールから見る消費文化
(担当教授：韓澤祐・巴特尔・安田震一・杉田文章)
フィールドワーク：玉川高島屋 SC、東急ライズ、GINZA SIX、沖縄ライカム、イクスピアリ、モール・エアポートウォーク名古屋

2018 年度：日本の消費の現状と今後の展望 ～多摩地域の過去・現在・未来～
(担当教授：大場智美・巴特尔・杉田文章・安田震一)
フィールドワーク：石川酒造、高幡山明王院金剛寺(高幡不動尊)、iias TAKAO、羽田クロノゲート

2019 年度：大都市郊外型高齢社会のコミュニティ形成への挑戦
～高齢者の社会参画を促進する地域づくりプラットフォームの構築を中心に～
(担当教授：巴特尔・李崗・杉田文章・安田震一)
フィールドワーク：東京八王子ビートルズ、筑波大学仲津准教授、ROADREST八王子

2020 年度：2020 年代の日本の「観光立国」を考える
～「安定」かつ「高付加価値」産業の構築を目指して～
(担当教授：巴特尔・李崗・新美 潤・杉田 文章・安田 震一)

2021 年度：コンビニエンスストアの新たな経済・社会的役割
～暮らしの一部から必要不可欠な存在へ～
(担当教授：巴特尔・李崗・荻野博司)

2022 年度：「Z 世代」からみた Z 世代研究
(担当教授：巴特尔・桐谷 多恵子・菅沼 睦)

2023 年度：「広島観光」の可能性
―原爆・戦争・平和を学ぶ旅をどう組み立てるのか
(担当教授：巴特尔・桐谷 多恵子・今村 康子)